

## 2022年度 事業報告

1. 法人活動の実質的な2年度目となる2022年度は、下記3点の重点項目に取り組むこととした。

- ① 組織基盤強化のため、規定類の整備などに取り組み、組織の枠組を整える。  
⇒まだ十分ではないが、2022年度は規程類などの整備に取り組み、組織の枠組を整えられるように勤しんだ。
- ② ネットワーク拡大のため、全国大会開催を含む積極的な普及啓発活動により、ACT以外のアウトリーチチームの入会促進を行い、新規会員の獲得を目指す。  
⇒年度末時点の会員数は、個人正会員187名【前年度比26名増】、チーム正会員41チーム【前年度比3チーム増】、法人正会員4チーム【前年度比1チーム増】、個人会員（賛助会員）63名【前年度比36名増】、団体会員（団体賛助会員）4チーム【前年度比2チーム増】であり、新規会員の獲得数は微増に留まった。
- ③ 経営基盤強化のためにも、新規会員の獲得に努め、会費収入による増収を目指す。  
⇒2022年度の新規会員の獲得数は上記の通りで、会員収入についても微増に留まった。

## 2. 委員会活動

### ① 政策・研究委員会

(ア)研修委員会との合同企画「アウトリーチにおけるハラスメント研修」の実施

⇒2023年1月28日に「利用者・支援者ともに安心できるアウトリーチ支援とは～事例から学ぶハラスメント研修」を実施した。当日は50名を超える参加者となり盛況となった。

⇒概要：講演および事例検討を行った上で、グループディスカッションを実施。  
オンライン配信で開催。

講演：「アウトリーチにおけるハラスメント対策」

講師：三木明子（関西医科大学看護学部）

事例検討：「アウトリーチでの暴言・暴力について」

話題提供：宮崎和紀（ACT-Aile）

(イ)文科研：「多職種アウトリーチ\_長期コホート研究」の申請準備協力

⇒国立精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 山口創生先生の文科研申請に研究協力体制の構築の上で協力し、2023年度からの研究助成を受けることになった。

(ウ)「療養継続支援加算」の普及に関する研修協力

⇒2022年9月2日に新設の診療報酬である「療養継続支援加算」を普及するために、国立精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部・日本精神保健福祉協会と連動しながら実施した。

### ② 広報委員会

(ア)委員会規定の作成（進行中）

- (イ) 委員会の開催
- (ウ) SNS の更新
- (エ) 会員増加に向けての広報先・広報内容の検討
- (オ) 全国大会実行委員会への参加員会の組織化

### ③ 研修委員会

#### (ア) 研修委員会メンバーの交代

新委員：瀧ノ上恵（埼玉県立精神医療センター）、西内絵里沙（所沢市アウトリーチ支援チーム）、藤野恭子（電気通信大学）

委員会退任：野上俊子（ACT-Zero 岡山）、吉田匡伸（札幌なかまの杜クリニック）

#### (イ) 研修委員会の開催

- ⇒2022 年 8 月 26 日 第 1 回研修委員会開催
- ⇒2022 年 9 月 12 日 第 2 回研修委員会開催
- ⇒2022 年 10 月 3 日 第 3 回研修委員会開催
- ⇒2022 年 11 月 14 日 第 4 回研修委員会開催
- ⇒2022 年 12 月 12 日 第 5 回研修委員会開催
- ⇒2023 年 2 月 6 日 第 6 回研修委員会開催
- ⇒2023 年 3 月 1 日 第 7 回研修委員会開催
- ⇒2023 年 3 月 4 日 第 8 回研修委員会開催（東京にて対面）
- ⇒2023 年 3 月 22 日 第 9 回研修委員会開催

#### (ウ) 研修会の企画・運営

##### 1. 2023 年 3 月 5 日開催：「『8050 問題』研修」

概要：講演およびシンポジウムをオンライン配信で開催。参加者およそ 80 名

講演：「8050 問題が抱える課題と地域での支援システム作りについて」

講師：原田豊（鳥取精神保健福祉センター）

シンポジウム：「8050 世帯に会う支援者の声～現状と課題～」

登壇者：佐野澄子（訪問看護ステーション珊）

大谷翔太郎（船橋あんしんすこやかセンター）

小幡泰江（ぶらっとホーム世田谷）

足立千啓（メルクマール世田谷）

#### (エ) 他の部会および委員会の研修開催バックアップ事業

1. 2023 年 1 月 28 日開催：政策・研究委員会合同企画「アウトリーチにおけるハラスメント研修」
2. 地域づくり部会の研修開催打合せへの参加

#### (オ) オンライン研修の開催マニュアルの作成

## 3. 部会活動

### ① 訪問支援・訪問看護部会

#### (ア) 部会コアメンバーの募集、強化

⇒以前より、東京都大田区にゆかりのある当事者(山田悠平)と家族(木村潔)と大田区在住の増子が定期的に勉強会の場を持っていたが、その方々と話す中で「日本の精神科訪問支援全般の底上げが必要。業界で囲い込むことを目的とせず、当事者のリカバリーの伴走をしつつ、地域コミュニティに深く根差し風通しの良い精神科訪問支援がもっと作られなければならない」という問題意識を共にすることとなった。この3人を起点として、元ACTスタッフで現在訪問看護ステーションを運営している看護師(野々上武司・大迫晋)や、訪問看護とその他の拠点の経営者(村尾眞治)、地域包括支援センターの高齢者支援スタッフ(米良重人)が、今後部会のコアメンバーとして継続的に議論することにご快諾をいただいた。

#### 1. コアメンバー

山田悠平(一般社団法人精神障害者当事者会ポルケ 代表理事)、木村潔(地域精神保健福祉を学ぶ市民の会 共同代表)、野々上武司(こころの訪問看護ステーション 副所長)、大迫晋(ネクステップ訪問看護ステーション 管理者)、村尾眞治(株式会社レポート 代表取締役)、米良重人(横浜市鴨井地域ケアプラザ 社会福祉士)、増子徳幸(株式会社 Link with 代表取締役・部会長)

#### 2. ミーティングと懇親会

⇒2022年8月6日 部会顔合わせ&全国大会に向けて「対話の録画」

⇒2022年8月6日 「対話の録画」終了後、懇親会

⇒2023年2月2日 部会会議(来年度計画に向けて)

#### (イ)全国大会参加

⇒2022年9月11日の自主企画分科会「いま、そしてこれから必要とされる精神科訪問看護・訪問支援を『アウトリーチネットの出会いの中で』考えたい」を企画、開催した。

#### ② 訪問医療部会(病院型・診療所型)

##### (ア)部会の組織化(コアメンバー決定)

⇒三家英明(三家クリニック)、植田俊幸(鳥取県立厚生病院)、上島雅彦(武田総合病院)

##### (イ)第一回全国大会での訪問医療部会の開催:「療養生活継続支援加算について」

演者:浜中利保(三家クリニック)、植田俊幸(鳥取県立厚生病院)

##### (ウ)2022年11月23日「第3回お顔合わせミーティング」開催:会員との交流、

特別講演:早瀬雅樹(香椎療養所)

##### (エ)2022年6月17日、9月10日「訪問医療部会ミーティング」開催:会員との

交流と並行して、コアメンバーと部会のミッションを検討

##### (オ)立ち上げ相談:新規で始めようとされている診療所、病院に対してコアメンバーを中心に会員をサポート

##### (カ)2023年度精神神経学会の訪問診療のシンポジウムの提案

③ 子ども・若者支援部会

(ア) 部会規定の作成

(イ) 部会の組織化

④ 地域づくり部会

(ア) 部会コアメンバーの募集、強化

⇒部会コアメンバーが決定：ミーティングを3回開催（Zoomを使ったオンライン）

1. コアメンバー

本間貴宣（一般社団法人しん 代表理事）、中山ちはる（一般社団法人しん）、田淵誠（株式会社 inC 代表）、高山京子（特定非営利活動法人びすた〜り 事務局長）、中野千世（地域活動支援センター櫻）、金井浩一（一般社団法人ライフラボ 相談支援事業所しほふぁーれ・部会長）

2. 部会ミーティング

⇒2022年8月20日 顔合わせミーティング

⇒2022年9月27日 第1回全国大会自主分科会振り返りミーティング

⇒2023年3月23日 部会ミーティング（事業計画に向けて）

(イ) コミュニティへのアウトリーチ、リハビリ支援における横断的モデル作りに向けての検証

⇒コアメンバーそれぞれの実践報告、「地域づくりとアウトリーチ」に関するそれぞれの考え、葛藤の共有にとどまった。

(ウ) 他の部会、委員会との連携事業

1. 第1回全国大会で自主企画分科会「アウトリーチと地域づくりの関係を考える vo.1」を企画、開催

2. 独自の研修会・勉強会は実施できていないが、来年度に企画・実施

⑤ ACT 部会

(ア) 会議等（オンラインにて）

⇒ACT 部会 幹事会：2022年6月、8月、2023年2月開催

⇒コアメンバー会議：毎月開催

⇒チーム①（フィデリティ・交流）：毎月開催（2022年9月～）

⇒チーム②（研修・広報）：毎月（2022年9月～）

⇒全国研修分科会会議：2022年8～9月に適宜開催

(イ) 総評

⇒2022年度計画に挙げた活動については、概ね達成出来たと評価。部会組織を下記の様に編制した。この事により、部会員に活躍していただく機会が増え、活動が活発化している。

A) コアメンバー

B) チーム①（フィデリティ・交流）

C) チーム②（研修・広報）

(ウ)課題

⇒会員からの求めに比較すると研修機会と種別が充分ではない。会員内外のコミュニケーションの機会が少ない印象。活動の企画、実施のための部会同士のコミュニケーションの機会をこれ以上増やす事は、負担が懸念される。1年毎の計画になってしまっていた。コアメンバーの固定化、など。

(エ)ACTの実践及び普及啓発活動

⇒9月開催の全国大会では分科会を2コマ受け持った。「入門編」「応用編」ともに充実した内容であり、反響もポジティブなものが多かった印象。ACTの普及啓発に効果があったと評価。広報と合わせて会員内外への情報交換の頻度と方法の検討が必要。

(オ)ACTに関する研修機会の創出

⇒2022年11月6日開催：「フィデリティ調査員研修」  
⇒ブロック別研修・ACT勉強会は未実施。企画・実施のための時間の確保が難しい。

(カ)ACTに関する情報交換、相互交流の機会創出

⇒忘年会を実施。情報交換会等の機会は企画立案中であり、来年の実施予定。  
企画・実施のための時間の確保が難しい。

(キ)フィデリティ調査の計画・実施

⇒各チームによるフィデリティ活用の促進を目的とし、「フィデリティ調査」の名称を「フィデリティピアレビュー」へ変更。  
⇒2022年度の実施申し込みチームの増加は見られないが、今後の普及による影響を期待出来る取り組みである。  
⇒2022年12月より各チームのレビューが開始。10チーム、レビュアー21名参加。企画・実施のための時間の確保が難しい。

(ク)認定制度の準備

⇒企画立案準備中。企画・実施のための時間の確保が難しい。

(ケ)ACTチーム立ち上げ支援

⇒コアメンバーにて実施。現状は有志による活動となっている。活動の継続性が課題である。

(コ)ACTに関する研究活動及び研究活動への協力

⇒政策・研究委員会と連携し、①ACTコホート研究、②アウトリーチ実装研究へ協力。

(サ)他部会及び員会との協力・連携

⇒他部会、委員会との定期的なコミュニケーションの機会を設けることが出来ていない。

(シ)その他、当部会の目的を達成するために必要な活動、部会の活動として部会長およびコアメンバーが認めた事項

⇒積極的に部会内外からアイデアを求める機会が少なかった。

#### 4. 法人運営

##### ① 第1回全国大会（研修・交流会）の開催

（ア）会期：2022年9月10日（土）～11日（日）

（イ）開催方法：会期中はオンライン生配信

※9月17日～10月10日の期間にオンデマンド配信

（ウ）鼎談：「アウトリーチの魅力やアウトリーチで大切にしたいこと」

登壇者：大石智（北里大学医学部精神科学、相模原市認知症疾患医療センター）

熊倉陽介（東京大学医学部付属病院精神神経科）

斎藤環（筑波大学医学医療系社会精神保健学）

（ウ）教育講演：「感情労働～人とのかかわりを職業とすることの意味～」

講師：武井麻子（Office Asako、日本赤十字看護大学名誉教授）

（エ）シンポジウム：「アウトリーチの複雑さや難しさについて」

登壇者：伊藤順一郎（メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ）

「ACTの活動を通じての複雑さ・難しさ」

谷口仁史（認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス）

「子ども・若者のひきこもり支援を通じての複雑さ・難しさ」

西邑章（京都府中丹東保健所）

「行政の立場や訪問型家族支援を通じての複雑さ・難しさ」

米倉一磨（相馬広域こころのケアセンターなごみ）

「東日本大震災支援を通じての複雑さ・難しさ」

（オ）アウトリーチネットとは？～大切にしていること、目指したいこと～

報告者：梁田英麿（共同代表／東北福祉大学せんだんホスピタル）

（カ）部会による自主分科会

##### 1. ACT部会（入門編）

「教科書ではわからないACTの話～ほかの職域からACTに入って驚いたこと 感じたこと 学んだこと～」

##### 2. 子ども・若者支援部会

「アウトリーチの拡充にどう向き合うのか？」

##### 3. 訪問医療部会

「医療機関からのアウトリーチについて今後の展望を考える」

##### 4. 地域づくり部会

「アウトリーチと地域づくりの関係を考える vol.1」

##### 5. ACT部会（応用編）

「私にとってチームとは～今話したいこと～」

##### 6. 訪問支援・訪問看護部会

「いま、そしてこれから必要とされる精神科訪問看護・訪問支援を『アウトリーチネットの出会いの中で』考えたい」

##### ② 定時社員総会の開催

(ア)日時：2022年5月22日(日) 11時00分～12時00分

(イ)会場：東北福祉大学せんだんホスピタル

(ウ)内容：報告事項 2021年度事業報告の件

決議事項 第1号議案 2021年度計算書類の承認の件

第2号議案 2022年度事業計画および収支予算の承認の件

第3号議案 定款一部変更の承認の件

第4号議案 役員選任の承認の件

③ 理事会の開催(原則オンライン)

(ア)2022年4月12日(火) 19時30分～20時45分

(イ)2022年5月22日(水) 11時20分～12時30分

(ウ)2022年6月20日(月) 19時00分～21時10分

(エ)2022年7月24日(日) 10時00分～17時00分【東京にて対面開催】

(オ)2022年10月17日(月) 19時00分～21時10分

(カ)2022年11月10日(木) 19時00分～20時50分

(キ)2023年1月31日(火) 19時00分～21時10分

(ク)2023年2月21日(火) 19時00分～21時20分

(ケ)2023年3月14日(月) 19時00分～21時15分

④ 共同代表会議(オンライン)

(ア)2023年3月8日(土) 21時00分～22時15分

⑤ 各部会や各委員会の意見の取りまとめや調整

⑥ 委員会および部会の開催

⑦ 人権・権利擁護ワーキンググループの立ち上げ

⑧ 事務局業務(委託含む)

(ア)会員の入退会に伴う業務

(イ)会費の請求業務

(エ)設立総会の開催に伴う業務

(オ)経理業務

(カ)法人税等の税務関連業務

(キ)現預金等の日常の管理業務

(ク)会員や外部関係機関などからの相談対応業務

## 役員 の 辞任

1. 役員 の 伊藤 順一郎 が 2023 年 4 月 17 日 に 理事 を 辞任 いた しまし た。

⇒ も と も と 理事 伊藤 順一郎 に は 設 立 か ら 2 年 間 の 約 束 で 役 員 を お 願 い し て い た 経 緯 が あ り ま し た 。 法 人 の 設 立 は 2020 年 12 月 で し た が 、 法 人 と し て 実 質 的 な 初 年 度 と な る 2021 年 度 と 翌 2022 年 度 を そ の 2 年 間 と し 、 こ の 度 そ の 任 期 満 了 を 迎 え ま し た 。 今 後 は 、 相 談 役 と し て 法 人 の サ ポ ー ト を し て い た だ く こ と に な っ て い ま す 。

2. 今 後 の 役 員 体 制 は 下 記 の 通 り で す 。

⇒ 理 事 と 監 事 は 伊 藤 順一郎 を 除 く 以 下 の 現 行 通 り で 継 続 し 、 共 同 代 表 は 岡 崎 公 彦 と 梁 田 英 磨 の 2 名 体 制 へ 変 更 い た し ま す 。

(あいうえお順)

理事	浦林 翼	ACT 部会 部会長 所属：合同会社ももこころ／おでかけクリニック
理事	岡崎 公彦	共同代表（理事長） 所属：岡崎クリニック
理事	金井 浩一	地域づくり部会 部会長 所属一般社団法人ライフラボ 相談支援事業所しほふぁーれ
理事	須田 竜太	研修委員会 委員長 所属：一般社団法人 Q-ACT
理事	谷口 仁史	子ども・若者支援部会 部会長 所属：認定特定非営利活動法人スチューデント・サポート・フェイス
理事	西尾 雅明	訪問医療部会（病院型） 部会長 所属：東北福祉大学
理事	久永 文恵	広報委員会 委員長 所属：COMHBO 地域精神保健機構
理事	増子 徳幸	訪問支援・訪問看護部会 部会長 所属：訪問看護ステーション Wing
理事	梁田 英磨	共同代表（理事長） 所属：東北福祉大学せんだんホスピタル
監事	山口 亮	つくし法律事務所
理事	吉田 光爾	政策・研究委員会（研究班） 委員長 所属：東洋大学ライフデザイン学部
理事	渡邊 真里子	政策・研究委員会（政策班） 委員長／訪問医療部会（診療所型） 部会長 所属：ちはや ACT クリニック



## 2022 年度 計算書類

### 貸借対照表

2023 年 3 月 31 日

一般社団法人コミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	3,091,683
未収会費	808,000
未収入金	30,000
仮払金	0
流動資産合計	3,929,683
2. 固定資産	
ソフトウェア	765,643
固定資産合計	765,643
資産合計	4,695,326
II 負債の部	
1. 流動負債	
仮受金	8,000
預り金	20,420
流動負債合計	28,420
2. 固定負債	
長期未払金	967,500
固定負債合計	967,500
負債合計	995,920
III 正味財産の部	
一般正味財産	3,699,406
正味財産合計	3,699,406
負債及び正味財産合計	4,695,326

## 2022年度正味財産増減計算書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

一般社団法人コミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会

(単位：円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
経常収益	
1. 受取会費	
個人正会員	762,000
チーム正会員受取会費	1,350,000
法人正会員受取会費	50,000
個人賛助会員受取会費	120,000
団体賛助会員受取会費	50,000
受取会費計	2,332,000
2. 事業収益	
部会活動収益	300,000
委員会活動収益	183,730
セレモニー参加費等収益	1,765,000
事業収益計	2,248,730
3. 受取寄付金	
受取寄付金	67,500
4. 雑収益	
受取利息	5
経常収益計	4,648,235
経常費用	
1. 事業費	
旅費交通費	73,344
通信運搬費	0
消耗品費	0
印刷製本費	0
諸謝金	376,832
委託費	124,382
会議費	11,770
郵送費	23,152
雑費	11,641
事業費計	621,121
2. 管理費	0
会議費	57,745
交際費	14,571
旅費交通費	388,080
通信運搬費	0
減価償却費	248,316
消耗品費	9,892
印刷製本費	0
諸謝金	867,366
租税公課	0
郵送費	125,282
委託費	531,787
HP維持費	104,552
雑費	24,504
管理費計	2,372,095
経常費用計	2,993,216
評価損益等調整前当期経常増減額	1,655,019
当期経常増減額	1,655,019
経常外収益	0
経常外費用	0
税引前当期一般正味財産増減額	1,655,019
当期一般正味財産増減額	1,655,019
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	1,655,019
II 指定正味財産増減の部	0
III 基金増減の部	0
IV 正味財産期末残高	1,655,019

## 監査報告書

一般社団法人コミュニティ・メンタルヘルス・アウトリーチ協会の2022年度における事業及び会計の監査について以下の通り報告します。

### 1. 監査の方法及びその内容

監事は、理事会及びその他の重要な会議に出席し、必要に応じて理事からその職務の執行状況について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し業務及び財産の状況を調査しました。それらを踏まえ、当該事業年度に係る事業及び会計について検討しました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査の結果

事業報告は法令、定款に従い正しく示しているものと認めます。

各理事の職務執行に関する不正行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算書類の監査の結果

計算書類は、法人の財産及び損益の状況を適正に表示しているものと認めます。

2023年4月13日

監事 山口 亮

